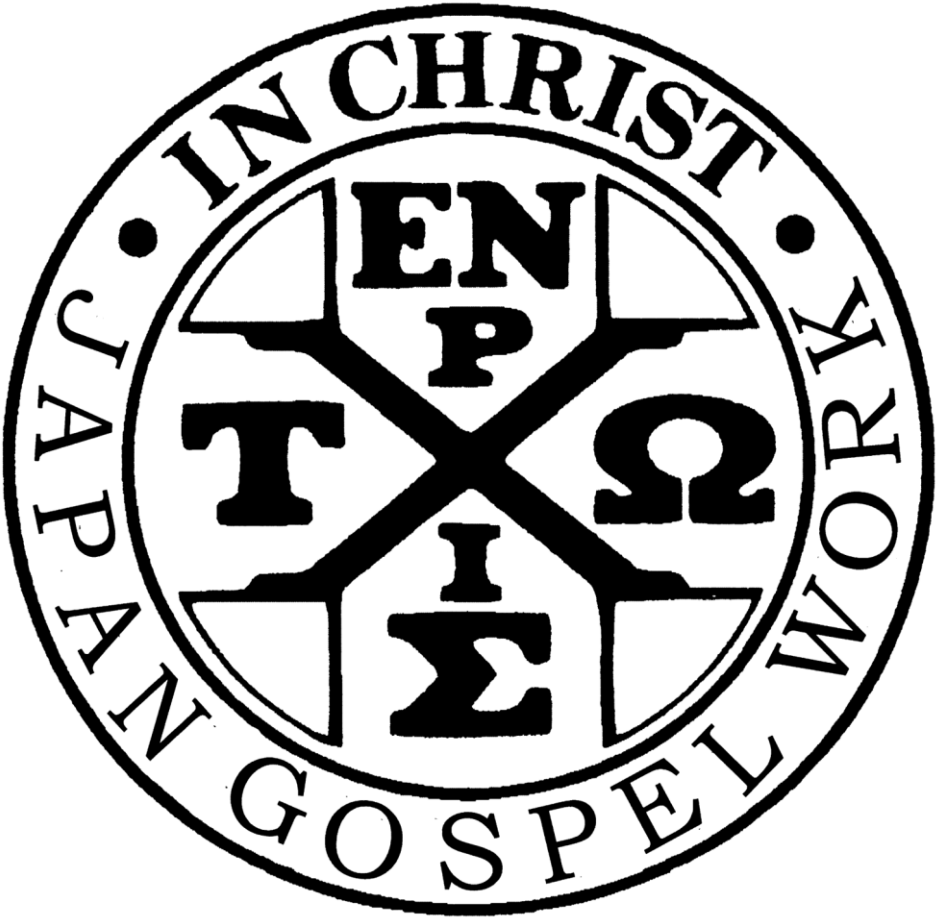
F T T T k

２０１８年



全時間訓練とは

全時間訓練は

神学校や聖書学校ではありません。

それは青年たちが共に住んで

からだの生活をして霊的な命を訓練し、

ここで訓練されて成就され、

聖書を学び、祈りを学び、

良い性格を建て上げることです。

主を追い求める青年たちを成就して

キリストの中で成長させ、

キリストのからだにおける正常な、生きた、

機能する肢体となって、

キリストの有機的なからだを建造し

キリストのからだの実際を生かし出します。

ウォッチマン・ニー

召しの証し

東京全時間訓練　13 期生

坂口明斗

「*彼はバターと蜜を食べ、いかに悪を捨て、善を選ぶかを知るに至る。*」（イザヤ 7：15）

これはわたしが学生の時に享受した御言葉です。バターは神の恵みを、蜜は神の愛を示します。神の恵みと神の愛を享受すればするほど、神の選択を取ることができるようになります。これを聞いた時、大学卒業後の進路について何も考えてはいませんでしたが、主に献げたいという気持ちはありました。ですから、日々主を享受することに自分自身を献げました。ブラザーズハウスに住み、共に追い求める仲間も与えられ、からだの中で守られて主を日々享受することができました。

進路の選択が迫られ、そのことを主に持ち出し始めましたが、内側では自然と訓練への願いが起こされており、また訓練に対して平安がありました。そして今訓練に来ており、ここにおいても、日々主を享受していることを主に感謝します！わたしたちは日々主を食べて、主の選択を取ることを願います。

東京全時間訓練　13 期生

酒井優太

訓練を意識し始めたのは日本に訓練が設立された頃、わたしが小学校高学年の時でした。神の裁きを恐れてのことでした。幼い頃から何度も挑戦し挫折した聖書通読の中で何度も目にするマタイによる福音書二十五章の物語はとても衝撃的なものでした。愚かな処女、邪悪で怠惰な奴隷のようになりたくない、主に知らないと言われ、暗闇で千年間も泣き叫んだり歯噛みしたりするのは絶対に嫌だと思いました。そのためには正常なクリスチャンとして生き、また成長し、勤勉に働くことが必要であることがなんとなくわかりました。その頃から暗闇で千年間の訓練を受けないために、生きている時に訓練され、勝利者になることが目標になりました。そして日本に全時間訓練が設立される時、全時間訓練の二年間は召会生活の二十年に相当すると聞き、勝利者になるためには絶対に行くべきだと感じました。そして、幼いながらも大学卒業後に行くことを決意し、宣言もしました。

ですが、それからのクリスチャン生活、召会生活は目標とするものとは程遠いものでした。自分に失望することも多くありました。一時は悔い改めても、しばらくするとこの世に戻ろうとする自らに苛立ち、自分

自身を責め、辛い時もありました。主以外の多くのもので渇きを潤そうとしたことも幾度もありました。

　しかし、主に感謝し、賛美します。裁きを恐れ、また勝利者になりたいという願いは常に消えることはありませんでした。この願いはわたしにとって多くの保護となりました。神のあわれみゆえに、こうして訓練に参加できたことを感謝します。

「*ただ一つの事、すなわち、後ろにあるものを忘れて、前にあるものに向かって体を伸ばしつつ、キリスト・イエスの中でわたしを上に召してくださった神の賞を得るために、目標に向かって追い求めています。こういうわけで、成人した者はみな、この思いを持とうではありませんか。また、もしあなたがたが別のことを思っているなら、神はこれをも、あなたがたに啓示してくださるでしょう。*」（ピリピ 3：13～15）

東京全時間訓練　14 期生

大野佳也

わたしが東京全時間訓練に行くことを決めたのには２つの理由があります。

１つ目は、わたしの祖父によります。

（申命記 6：6～7）

「*わたしが今日、あなたに命じるこれらの言葉を、あなたの心にとめなければならない.*
これをあなたの子供たちに努めて教え、あなたが家に座っている時も道を旅する時も、横になる時も起きている時も、これについて語らなければならない.」

わたしはクリスチャン家庭に生まれ、幼少の頃から祖父には全時間訓練に行くように上述の節ほどではありませんが告げられていました。祖父はこのことにおいてとても熱心で、その当時は日本に全時間訓練はなかったのですが、５～６歳程度のわたしに「アメリカの全時間訓練に行

きなさい。しかし、そのためには４年大学を卒業していなくてはいけない。だから、アメリカの大学に進学しなさい。」とさえ言っていました。このような祖父からのキリストに満ちた語りかけもあり、幼少期のわたしは全時間訓練に行くことはクリスチャン生活において一般的なこと・当然のことであるという認識を持っていました。十数年後の今においてもこの影響は強く残っており、実際に全時間訓練に参加することができました。このことで主と祖父に強く感謝しています。

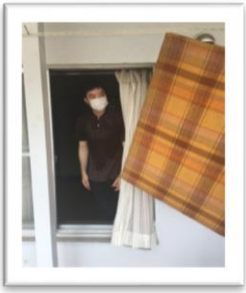
２つ目は、歴代の東京全時間訓練の訓練生と卒業生によります。

（Ⅱテサロニケ２：7～8）

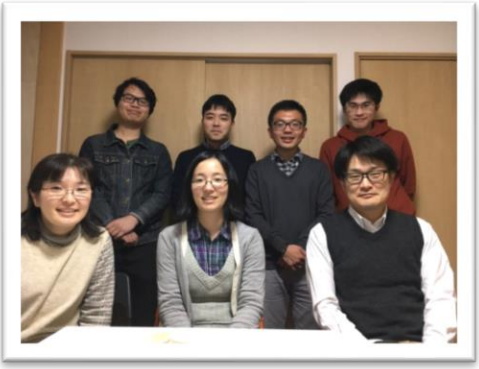
「*むしろ、わたしたちはあなたがたの間で、養う母が自分の子供たちをはぐくむように優しくしました。*

このように、あなたがたを慕わしく思っていたので、わたしたちはあなたがたに、神の福音だけでなく、自分の命までも、大いに喜んで分け与えようとしたのです。それは、あなたがたがわたしたちにとって愛する者となったからです。」

２００５年に東京において全時間訓練が開始されました。その中で、わたしは東京に住んでいたこともあり１期生～１３期生までの多くの兄弟姉妹たちを見てきました。幼少期の頃から全時間訓練に行くことを決めていたわたしにとって彼らは関心の的であり、憧れの存在でもありました。わたしから見て、主を享受し追い求めている彼らの姿は、とても輝いており、尊い模範でした。また、全時間訓練生や訓練卒業生と関わる機会も多かったこともあり、その度に彼らから養い、育み、励まし、助けを受けることができました。このような彼らとの交わりや顧みを通して自分に欠けているものが多くあることを照らされ全時間訓練への願いや必要性がさらにいっそう強められました。



訓練生活



ブレンディング

特別短期訓錬

訓練における証し

神の愛

坂口明斗

わたしは訓練生活の中で、日々神の愛を享受しています。わたしたちは毎日「主よ。あなたを愛します。」と祈りますが、それはまず神がわたしたちを愛してくださったからです。「*わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです*」（Ⅰヨハネ 4：19）。わたしが失敗した時、落ち込んでいる時、主を愛せない時、いつも主は愛をもって顧みてくださいます。主との交わりの中でこの愛が注入されて、主を愛することができるようになります。またⅠヨハネの続く節によると、わたしたちは主の愛が造り込まれて、他の兄弟姉妹たちを愛することができます。

この愛の中でわたしたちはキリストのからだの肢体仲間を愛し、真実、すなわちキリストと彼のからだを固く保ち、かしらであるキリストの中へと成長し込みます（エペソ 4：15）。そしてこの愛の中で、成長から来る機能を通して、からだの建造へと至ります（エペソ 4：16）。

神がまずわたしたちを愛してくださったことを感謝します。

御言葉を読んで神ご自身と接触する

酒井優太

御言葉を祈り読みすることについて証をしたいと思います。「*聖書はすべて、神の息吹かれたものであり*」（Ⅱテモテ 3：16）。まずわたしたちは御言葉を通して神ご自身に接触する必要があります。聖書は神の息吹であり、神が語った言葉は霊であり、命ですから、わたしたちはまず思いではなく、霊を活用する必要があります。理解や暗記は二次的であり、まず生ける神ご自身に触れ、彼を享受する必要があります。

訓練生のスケジュールには朝に約三十分主と交わる時間があります。わたしはいつもその日の分のアウトラインを読んだのち、その日の御言葉を祈り読みしていました。以前のわたしの祈り読みというのは、御言葉を理解して、その理解に従って、またアウトライン・読み物部分の言葉を用いて、祈るというものでした。しかし、ある日一読しただけでは理解が難しい御言葉に出会い、いつものようには祈りが出てきませんで

した。その時にいかに自分がまず思いを活用し何かを理解することに焦点を置いていたかに気づかされました。それからは霊の中で貧しくなり、空の器として、何のおおいもない状態で主へと行くことを学んでいます。御言葉を何度も繰り返しそのまま祈ったり、ただ彼の御名を呼んだり、詩歌を歌ったり、「主よ、わたしにはこの御言葉の意味がわかりません。」と告げたりします。そのように単純になり、主と会話することを学び始めてから、以前にも増して主を享受し、「ああ、今朝もいっぱい吸い込んだ！」という気分になり、自然と喜びに満たされます。今日やらなければならないこと、将来への不安、今持っている聖書知識、過去の霊的経験でさえも主に接触することを妨げます。ただ単純になってへりくだって主へと行き、さらに多く彼で満たされることを願います。

詩歌 210（復）

ふるきものすべて　吐き出させ、

ながゆたかすべて　吸わしめよ。

十字架につけられたキリストは、神の力、また神の知恵である

大野佳也

（Ｉコリント１：18）
「*十字架の言葉は滅びつつある者には愚かですが、救われつつあるわたしたちには、神の力です。*」

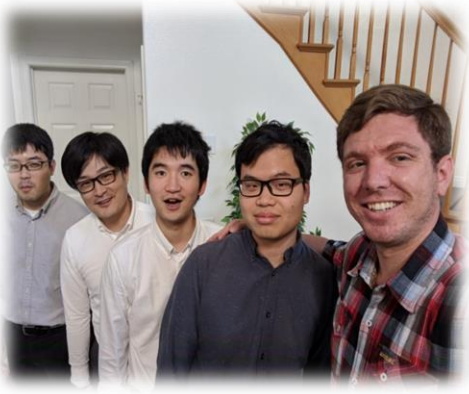
（Ｉコリント１：24）
「*召されている者には、ユダヤ人にもギリシャ人にも、キリストは神の力、また神の知恵です。*」

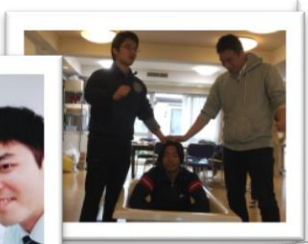
十字架につけられたキリストは、神の力であり、また神の知恵です。わたしたちは日常生活においてこの十字架につけられたキリストを経験することを必要とします。

ある時、わたしは難しい状態にありました。それは、ある兄弟に対して大きな怒りを感じていたことによります。その兄弟とのやりとりにおいて、わたしはある失敗をしてしまい、その兄弟の気分を害してしまっていました。しかし、その後でのその兄弟の無礼な態度と横柄な振る舞いにわたしは怒りを感じていました。わたしは元来短気であり、そのことで今まで多くの問題を引き起こしてきました。そしてこの時も、非はわたしの方にあったのですが、彼の態度や振る舞いに対して怒ってしまい、そのことに関して罪定めをしてやろうと考えていました。しかし、そこで一旦、思いとどまりその事柄から目を離して主の御名を呼びまし

た。不思議と怒りはわたしから無くなりその兄弟に対して謝罪をしました。その後で、とても甘い感覚があり主の享受で満たされました。

わたしたちには、自分の中にある消極的なものに打ち勝つ力も知恵もありません。何か自分で努力し励もうとしても、わたしたちの行きつく先はいつも敗北です。同様にそのことで祈りを持ったとしても力と知恵は与えられません。しかし、主の御名を呼び求め、キリストを享受し、命を与える霊で満たされる時、わたしたちは自分の中にある消極的なものについて何の問題も持ちません。自然にわたしたちはそれに打ち勝つ力、対処する方法、知恵を持ちます。この力と方法と知恵とは何でしょうか。それは、キリストの死であり十字架につけらえたキリストです。このように十字架につけらえたキリストを経験するならば、わたしたちからどのような種類の問題もなくなります。このキリストの死・十字架につけられたキリストを経験するのは、自らの努力や我慢によりません。主の御名を呼び求め、キリストを享受することによります。ハレルヤ、キリストの十字架のゆえに主を賛美します。わたしたちに主の御名が与えられていることを感謝します。





福音行動

海外ブレンディング

神がこの世代に道を得られるかどうかは、
この世代に絶対的な人がいるかどうかに
かかっています。

ウォッチマン・ニー